

Hello Kids!

小学校英語
情報誌

2009
Vol.3-3

特集:どう使う?『英語ノート』— 他教科とのタイアップ

基調講演
東京国際大学
新里 眞男
先生



東京都足立区立
弥生小学校
吉田 啓先生



東京都板橋区立
大谷口小学校
渡邊 美江子先生



『英語ノート』指導法セミナーの様子

開隆堂では、8月23日に『英語ノート』指導法セミナーを行いました。「授業にすぐ役立つ実践的な内容だった」など、参加された方々からご好評をいただきました。

千葉県柏市立
光ヶ丘小学校
樫村 雅子先生



巻頭言 「コミュニケーション能力の素地」とは?

阿部フォード恵子(CALA代表/聖学院大学講師).....2

特別支援学級における英語活動の実践

小林省三(東京都江戸川区立二之江小学校校長).....3

実践報告 他教科と連携した外国語活動案

樫村雅子(千葉県柏市立光ヶ丘小学校教諭).....4

英語劇『かぶ』による言語の「気づき」を大切にしたい授業実践

斉藤浩子(茨城県古河市立古河第二小学校教諭).....6

ちょっと一言 白畑知彦(静岡大学教授).....8

Say “Hello” with Alison!

根本アリソン(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師).....8

開隆堂

「コミュニケーション能力の素地」とは？

CALA代表／聖学院大学講師 阿部フォード恵子



外国語活動を支えるために『英語ノート』が導入され「コミュニケーション能力の素地」を育成するという目標が提示されました。導入に伴い、教育委員会をはじめとする各種の研修会、指導者講習会、討論会や小・中合同会合などが展開されています。私たちは「コミュニケーション能力の素地」とは何か、その原点を十分に理解しているでしょうか？現場で十分に理解し、実践しているのでしょうか？

1. 楽しい英語と話せる英語

「楽しい英語」と聞いただけで拒絶的な反応を示す先生や指導者と出会うことがあります。しかしことばを学習するとき、ことばを使う楽しさがなければその定着度はかなり遅れます。授業が退屈でわかりにくく、楽しくなければ英語嫌いを作ります。

子どもたちに「楽しい(fun)英語を教える」ということは「楽しい(fun)英語を通してコミュニケーション能力の素地を育成する、素地を膨らめます」ことなのです。アゴを上げ、相手の目を見ながら一言でも英語が言えるうれしさをたくさん与えます。コミュニケーション能力の取得です。自分から先生にたずねる一言が言える喜びをたくさん与えます。コミュニケーション能力の獲得です。

“Do you like soccer?”と先生に聞かれて“Yes, I do. I like soccer.”と答えなければ×でしょうか？“Do you like soccer?”と聞かれて、相手の目を見ながら“Oh, yes!”と言えたら素地が膨らみます。自分の発した意味がわかって使っているからです。「英語を話して」いるのです。

『英語ノート』と出会う子どもたちが意味を理解して楽しく英語を聞いたり話したりしているうちに、『英語ノート』や先生の英文に近づいていきます。意味がわかって英語を使っているからです。正しい音声を聞き、表現を拾っていくことを重ねていくうちに“Oh, yes! I like soccer. How about you?”の登場です。自己紹介文の順番にこだわる先生がいますが、児童は自分の英語で伝えようとしているので順番はどうでもよいのです。初めて『英語ノート』に出会う子どもたちにCDや指導資料にある通りの発話を強制する必要はないのです。コミュニケーション能力の素地とは伝達能力を育てるために必要な栄養素です。栄養素を与えていきましょう。

2. 目標達成

子どもたちは英語を読んだり書いたりする割合を増やすほど、顔が下を向く度合いが高まり、コミュニケーション能力は低下していきます。目標の「コミュニケーション能力の素地」の育成から離れていきます。『英語ノート』の各レッスンでは「CDを聞いて□に番号を書こう」という指示がかなりあります。校内研修に何うと、CDを少し聞かせ、直ちにこのタスクを与える場面に出会うことがあります。この番号書きのタスクは最後の仕上げに利用するよう提案します。CDを聞き込み、アゴを上げて、相互活動(interaction)を充分に楽しみ、最後の仕上げとしてこのタスクを与えます。子どもたちにはレッスンを仕上げた達成感を味わう権利があります。しかも全員満点で！

特別支援学級における英語活動の実践

東京都江戸川区立二之江小学校校長 小林 省三



1. JTE, 担任, 校長で楽しく英語活動をすすめます

本校の特別支援学級(知的障害)は「わかくさ学級」の呼称のもと、1年から6年まで26名の児童が在籍しています。主な障害は自閉症、高機能自閉症、広汎性発達障害、ダウン症です。担任5名、講師1名、介助員3名で構成され、児童一人ひとりの自立活動を支援しています。平成19年7月から現在まで、英語活動を通して積極的なコミュニケーション力をつけるため毎週1回、JTEと担任、校長で連携し実施しています。

2. 『英語ノート 1』(Lesson 3 数で遊ぼう)はお気に入り

「20までの数を覚えよう」を『さあ! お買い物しよう』のテーマで実践したところ大ヒット。興味・関心が高く、教師と児童、児童と児童による活動等を通して、時間の経過を忘れるほどでした。児童のコミュニケーション力のレベルに応じてグルーピングしてみました。商品はプラスチック製の実物大野菜と果物ですが、とても効果があります。



3. 子どもが変わります! Aさん(広汎性発達障害)の例

英語活動がスタートして1年目、地下鉄に乗り、近隣のスポーツセンターに引率したときのことです。インドの方が車内にいました。Aさんは引率者の手を振り切ってその男性に近づいていき、“Good morning,

How are you?”と言ったのです。驚いたのはインドの方でした。きちんと英語で答えていただき、「来日して2週間、とてもうれしかった」とのこと。小さな国際親善となりました。Aさんにとって、日本語以外の言語が通じるといったのです。異文化理解の素地が培われてきたのでしょうか。外国人だからといって臆することなく英語で話しかけたことは周囲にいた友だちに感銘を与えました。

4. 音楽や算数が大好きに

Bさん(ダウン症)は発声がとても困難です。でもBさんは英語活動でJTEの口の形をいつも真似していました。2年目の終業式当日、大きな声でしっかりと校歌を斉唱しました。担任の支援もあり、通常学級の児童も感心するほど立派に歌います。

Cさん(自閉症)は算数で数をかぞえるときに、もぞもぞと自信がなさそうでした。今では、one, two, three...と英語で言います。担任もそれをさえぎることなく、英語でGood.やThank you.とほめていきます。ますます自信をもってすべての教科を学習しています。

発話できない児童でも何とか声を絞り出そうと懸命に歌っている姿には感動を覚えます。とくに『英語ノート1』にある“Head, Shoulders, Knees and Toes”の歌はおすすめします。リズムカルに全身を使って歌うので、指導者も児童もテンションが上がります。



他教科と連携した外国語活動案



千葉県柏市立光ヶ丘小学校教諭 檜村 雅子

1. 小学校教育課程の中の外国語活動

英語を専門とされる先生方から、中・高、その先を見越した外国語教育から小学校英語を捉えるようにと言われます。もちろん、それも大切ですが、私たち小学校教員にとっては、小学校教育全体を捉え、目指す児童像を念頭に置いた活動の1つとして英語活動を創造していくことが課題でないかと考えます。新学習指導要領でも、言語は知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤であり、国語科以外にも関連させていく工夫が大切である旨が謳われています。学習への意欲喚起、知識・技能、思考力・判断力・表現力の育成に外国語活動も一翼を担っているというスタンスで、外国語活動を特別視せず、他教科と関連づけた活動を提案したいと思います。

2. 活動案作成に際して

低学年であれば楽しく歌って踊っていた活動も、特に高学年ではノリが悪いということがありますよね。外国語(英語)への興味だけでなく、発達段階に応じて、活動や内容自体に興味を持てるかが大切であり、児童にとって価値や必然性のある問いでなければ反応が鈍くなるということを感じてきました。国語科や他教科と同じで、教師が口出しし過ぎない授業がよい授業で、児童が主体的に、聞きたいから聞き、話したいから話すよう仕向けたいと思います。

他教科と関連づけた活動では、他の教科で得た知識と結びつける力(類推力・総合力)が働き、知的好奇心を満足させ、意欲を喚起する利点があります。また、グループワークを取り入れることで、チームワークや相手を思いやる気持ち、他者理解、自分のことをよく知る・見つめる(自己決定)、自尊心を育むよう仕組むこともできます。「英語でやる必要あるの?」「大事なことから母語で教えれば?」という意見もありますが、いろいろな場面で、繰り返し指導することで児童の力になるのではないのでしょうか。

3. 『英語ノート』を利用して

『英語ノート』の利点は、「教材があり、準備する負担が軽い」「活動案があるからとりあえずやってみることができる」ことだと思います。慣れてくれば、クラスの実態に合わせて、ご自身の信念や得意なジャンルを取り入れたりして、一部を変えてオリジナリティを出せばよいでしょう。

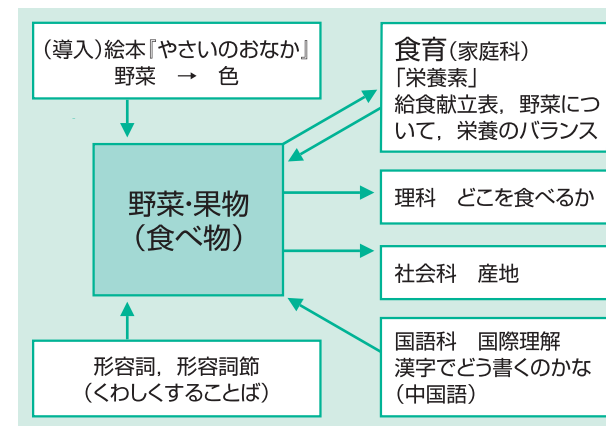
例えば、『英語ノート1』Lesson 7 What's this? 「クイズ大会をしよう」では漢字と関連づけたり、部分見せやブラックボックスなどのゲーム感覚を取り入れたりしています。

その他にも、読書と関連して、次に登場するものや主人公の持ち物等を「What's this?」でたずねる、表現活動と関連して児童にいろいろな動物等のジェスチャーをさせて互いに当てっこさせる、社会科と関連して、地図記号やグラフの読み取り(第1位は何か、等)をたずねる活動等が考えられます。また、『英語ノート1』Lesson 6 What do you want? 「外来語を知ろう」ではいろいろな外来語が出てきます。その中で、「野菜と果物」に重点をおいて、食育を絡めた授業を行いましたので紹介します。

4. 食育と連携した活動案

単元名 「野菜と果物」

(1) 活動計画スケッチ



(2) 各時の計画

第1時 野菜とその特徴を知ろう

過程	活動
あいさつ	自己紹介 英語活動の説明
導入	絵本『やさいのおなか』何色か等のヒントを聞いて野菜を推測させる。
Activity	野菜の実物に触れさせ、形容することばを実感させる。 「あら・かるた」※を使って(1)野菜
振り返り/あいさつ	できるようになったことや次の課題を見つける/あいさつ

第2時 果物とその特徴を知ろう

過程	活動
あいさつ	あいさつ
復習	野菜カードを使い、特徴を聞いて何のカードか当てさせる。
Activity 1	野菜の実物に触れさせ、形容することばを実感させる。 「あら・かるた」※を使って(2)果物
Activity 2	植物のどの部分を食べているか説明し分類。
振り返り/あいさつ	聞き取れたことばを振り返り、感想をまとめる./あいさつ

第3時 果物と野菜の栄養素を考えよう

過程	活動
あいさつ	あいさつ
復習	赤いものなら手をたたこう
Activity 1	英語カードを使って(3)
Activity 2	給食献立表を赤・黄・緑のグループに分類。
Cool Down	ビデオ視聴
振り返り/あいさつ	聞き取れたことばを振り返り、感想をまとめる./あいさつ

第4時 栄養バランスの整った献立を知ろう

過程	活動
あいさつ	あいさつ
復習	今日の給食を赤・黄・緑のグループに分類する。
Activity 1	「あら・かるた」※を使って(4)
Activity 2	ヒント聞き取りゲーム
Cool Down	絵本 A color of his own
聞き取りテスト/振り返り	聞き取りクイズ。 振り返りシートに記入。

※「あら・かるた」:『デイリー英単語 あら・かるた』,開隆堂出版。

5. よりよい授業を目指して

「私は英語が苦手」と二の足を踏んでいた年配の先生が、実際に授業をしてみると、児童が主体となったすばらしい授業展開をされた例を知っています。確かに英語はお上手とは言えませんが、長年培った「授業力」を感じました。

「話し合いが成立するための条件は、認識のズレがあること、話し合う価値の大きい場の設定であること、聞き返し方のスキルが指導されていること」これは本校の授業研究会で講師の先生からいただいた国語科へのアドバイスです。そのまま外国語活動にも通用します。授業力を磨いてきた先生方は、授業の組み立て方、子どもの動かし方・変容の見とり方が上手です。他教科との連携とは、内容だけでなく授業そのものにも今までの経験を生かすことが含まれます。その1時間を通して子どもに変容が見られる授業、目指す児童像に1歩近づける授業、そんな授業にするためには、「テキストを教える」から「テキストを使って教える」意識への転換が大切であると思います。教師のアイデアを加えて、より意義のある楽しい活動にしていきたいですね。

英語劇『かぶ』による 言語の「気づき」を大切にしたい授業実践



茨城県古河市立古河第二小学校教諭 齋藤 浩子

1. はじめに

本校では、平成23年度の「英語活動」導入に向け、平成19年度から全職員で英語活動の授業実践に取り組んできた。19年度は年間計画の作成、20年度は授業実践が中心であった。そして、英語を話すことができない職員は英語活動にどのように取り組んでいけばいいのかわからないときは、学級担任だけでどのように取り組んでいったらいいのかわからない、模索しているところである。

今回の授業では、ラボ教育センター監修の『かぶ』(英語の歌と物語のワークショップセット)と出会い、英語劇を通じて言語(音声)の「気づき」を大切にしたい授業を行った。「ことば」に注目することで、英語や日本語への興味・関心を持たせたり、両者を比較しようという意識を芽生えさせたいと考えた。そして感じたことや思ったことを、自分のことばで相手に伝えるという活動を通して自己理解を友だちの話を通じて聞き取るという活動から他者理解をすることまでつなげたいと考えた。

2. 1年生国語『大きなかぶ』と5年生の英語活動

1年生の国語の単元で『大きなかぶ』がある。その単元では子どもたちはお面をつけて劇を行った。とても楽しい活動で子どもたちの記憶にもしっかりと残っていることと思われる。

今回の第1時の授業では、『かぶ』The Turnipを英語のみで聞いた。かぶを抜くときのかげ声に気づいたり、grandpa, dog, cat, mouse等の単語を聞き分けたりする児童もいて、物語が全て終わる頃には、ほとんどの児童がそれが『かぶ』の英語版だと気づいていた。この時点で最終の目標は、「英語と日本語で劇を発表する」と明言すると、「絶対無理!」「できないよ!」等の声が児童から上がった。そこで第2時では、おもしろい場面を話し合うことで、1年生のときには気づけなかった新しい発見が数多く出てきた。

絵本と音声(英語・日本語)を同時に見たり聞いたりすることで、物語の内容が自然に体に入り、母国語である日本語を多用することで安心して発表できたのである。

第3時からは「ことば」に注目し、どんなことばが聞こえたかという聞き取りをした。その後は、登場人物の人物像について話し合い、セリフ等を練習し、どんな様子で言っているのかという身体表現へと広げ、最後の「かぶが抜けた時」のナレーションを覚えてから、劇の練習へとつなげた。

このあたりから児童には「できるかもしれない」という気持ちが生えてきた。そしてそれは「できる」という自信へと変わっていったのである。



3. 5年1組公開授業

(1) ねらい

おもしろいと思ったことば、心に残ったことばについて話し合い、英語と日本語の違いやそれぞれの良さについて興味・関心を持つことができる。

(2) 評価規準

ワークショップを通して、ことばについていろいろな発見をし、感じたことを自分のことばで表現できる。

(3) 準備物

- ① CD
- ② 『かぶ』の絵本
- ③ めあてカード
- ④ 付箋
- ⑤ ワークシート

(4) 展開

分	活動内容	指導上の留意点	準備
2	1 はじめのあいさつをする。 T: Hello. How are you? S: I'm fine [sad, tired, hungry, sleepy], thank you. And you?	・児童と共にあいさつし、明るい雰囲気の中で活動ができるように留意する。 ・あいさつカードを提示して、自分で気分を伝えられるようにする。	
7	2 歌を歌う。 ・Hello Song や Seven Steps を踊りながら歌ったり、数を取り入れたゲームをしたりする。	・一緒に歌い、楽しく活動できるよう配慮する。 ・配慮が必要な児童の近くで一緒に歌い、楽しく活動できるようにする。	①
9	3 『かぶ』 The Turnip を英語と日本語で聞く。 ・おもしろいと思ったことば、心に残ったことば、不思議なことば、好きなことば等をメモしながら聞く。 ・理由も考える。	・CDに合わせてプロジェクターと絵本を見せる。 ・本時のめあてを提示し、おもしろいと思ったことば・心に残ったことば、不思議なことば等をメモしながら、聞くように指示する。 ・付箋を配って随時気づいたことばを書くよう指示する	③ ① ② ④ ⑤
15	4 ワークショップをする。 ・グループでメモしたことばについて各自発表し、話し合う。 ・グループで意見や発表をまとめ、分類する。 ・グループの考えをクラス全体に発表する。	・ことばを意識する活動なので、英語でも日本語でもことばそのものへの気づきや発見を評価したい。 ・聞こえた通りの音を日本語で書くよう助言する。 ・同じ意見を分類し、その理由も考えるよう指示する。 評価 ことばについて様々な発見をすることができたか。(観察)	
9	5 もう一度『かぶ』のCDを聞く。 ・おもしろいと思ったことばをCDと一緒に声に出して言う。	・他にもおもしろいと思ったことばを見つけたら、メモを取るよう指示する。	①
2	6 今日の授業を反省し、次時の活動内容を伝える。	・次時のめあてを確認し、時間があれば、感想を何人かに発表してもらう。「動物の鳴き声に注目しよう」	⑤
1	7 終わりのあいさつをする。 T: See you next time. S: See you.	・楽しい雰囲気で終わり、次時への期待感を持たせる。	

4. 言語(音声)への「気づき」

この授業では、英語の聞き取りは難しく、長いので、意見が少ないのではないかと心配していたが、自分のことばで表現する楽しさを体感した児童たちは、多くのことばを自分の耳で聞き取り、自信を持って全員が発表できた。これは、本当にうれしかった。児童たちが聞き取ったことばは、dog, cat等の単語はもちろんbowwow等の動物の鳴き声、そして、レミツプラミチュ(Let me pull this turnip.)等、実に様々で長い文節も聞き取り、聞き取ることに楽しさに気づいた児童たちは、この授業以後、話すことにも抵抗がなくなっていったのである。

5. おわりに

場面や人物像を想像しながら、聞こえたままにセリフをつないでいく。音声で聞こえる英語のセリフの言い方から、「80歳くらいのおじいさんの声にしよう。」「おじいさんはどんどん疲れていくから、腰を曲げてそれを表現しよう。」等の意見が出てきた。互いのチームの劇を見合って「そこ、もう少し力を入れている感じを出した方がいい。」等の意見交換がなされたりした。授業参観での劇発表は、本当に素晴らしい出来だった。「ことば」に着目することで、「従来の英語学習」という固定観念にとらわれず、10時間が楽しく意欲的に進められた。「あつという間だった。」「もっとやりたい。」の感想は、本当にうれしかった。

ちよつと一言

第3回—ことばを使うということは…

英語でも日本語でも、世界中のどんな言語の話者も、ことばを使用するという事は、自分の言いたいことを相手に伝えたり、相手の伝えたいことを聞いたりと読んだりしたいためです。当然ですよ。そして、何かを「話す」には「中身」が伴います。私たちは中身がないことをむやみに誰かに喋ったりしません。仮に、中身のない話を聞いたとしたら、それは楽しくないですよ。[コミュニケーションをする]ときには必ず中身が伴います。そう考えると、小学校の英語活動では、「コミュニケーション能力の素地を養う」ようになっているわけですから、活動で話したり聞いたりする際の中身は意味を持つものでなければなりません。単に、「Do you like apples?」「Yes. See you.」じゃよくないわけです。要するに、クラスメートに、なぜ「リンゴが好き?」って聞くのかということです。

小学生にとって最も身近な話題は何でしょうか? それはおそらく、毎日学校で勉強している教科と関連する内容なのではないでしょうか? 小学生が自分のことばで話せる内容、そして、いろいろと思考を凝らしていること。それは何かと考えれば、授業内容と連動してきます。多様な教科の勉強を通して子どもたちは「中身」を、つまり「知識」を獲得していきます。もちろん、学校で教える教科の枠を超えた話題もあるでしょうが、小学生の目線に立った活動内容を考えると、国語科のみならず、社会科、理科、音楽科、家庭科などの教科内容とリンクして授業を組み立てていくべきだと思います。子どもたちにとっても、なぜ英語を使うのか明確になって、きっとそういう授業構成の方が楽しいと思いますよ。

白畑 知彦(静岡大学教授)

Say “Hello” with Alison!

根本 アリソン

イギリス出身・1989年より福島県で英語講師として活躍中

■School Life in England (3)

今回はイギリスの小学生の1日をご紹介します。夏休みに、小学4年生の甥っ子Samが説明してくれました。Samの学校はイギリスの東北部、ハロゲート市にあるRossett Acre Primary School(<http://www.rossettacre.n-yorks.sch.uk/>)です。児童数は430人です。

学校は朝9時に始まるので、Samは8時30分に家を出て、母親の車で登校します。学校に着いて最初の30分は英語力を伸ばすための“Wordplay Exercise”を行います。ゲーム感覚で、いくつかの短文字から多くの英単語を楽しく作る活動です。通常の授業は9時30分から60分区分切り(休み時間は15分)で進みます。1時間目の授業が終わると大ホールで毎日全校集会があります。集会の後は外で友だちと遊んだり、おやつを食べたりします。2時間目の授業は11時に始まり、12時からお昼休みが1時間あります。昼食は3分の2の児童が家から“packed lunch”を持って来て、残りの児童は給食を食べるそうです。

午後1時から3時間目の授業、2時15分から4時間目の授業があり、3時30分に学校が終わります。放課後は、希望の児童にはオーケストラ、ネットボールやサッカーなどの練習があります。Samは音楽に興味があるので、毎週火曜日にギターの個人レッスンを受けています。日本と違って、掃除の時間はありません。夕方にお掃除の方たちが入ってきれいにしてくれます。毎日の宿題は算数の問題や“spelling”ですが、長い休み中の宿題はありません。

次回は小学校の教科について紹介します。

See you next time!

(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)

小学校英語情報誌

Hello, Kids!

Vol.3-3(通巻11号)

定価120円(本体114円)

送料80円

平成21年10月9日印刷 平成21年10月15日発行(年4回発行) 編集兼発行人 山岸 忠雄

印刷所 株式会社興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業)、(5684)6118(販売)、(5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社	〒060-0061	札幌市中央区南一条西6-11	札幌北辰ビル8階	☎011(231)0403
東北支社	〒983-0043	仙台市宮城野区萩野町1-11-1	萩野町Mビル2階	☎022(782)8511
名古屋支社	〒464-0802	名古屋市中区星が丘元町14-4	星ヶ丘プラザビル6階	☎052(789)1741
大阪支社	〒550-0013	大阪市西区新町2-10-1	6	☎06(6531)5782
九州支社	〒810-0075	福岡市中央区港2-1-5	F Y Cビル3階	☎092(733)0174